



チベット通信

༄༅། ཉི་འོང་སྐུ་ཚབ་དོན་གཙོད་ཁང་གི་གསར་འཕྲིན།

2021年 冬号 WINTER ISSUE



ダライ・ラマ法王日本代表部事務所（チベットハウス・ジャパン）

JAPANESE TIBETAN BULLETIN

JAPANESE TIBETAN BULLETIN

2021年 チベット通信 冬号 WINTER ISSUE

Contents

日本・チベットニュース

- ノルジン・ドルマ大臣、中谷元氏の国際人権問題担当補佐官就任に祝意…………… 1
- 中央チベット政権議長、日本の新内閣総理大臣・岸田文雄氏の就任を祝福…………… 2
- アリヤ代表が第2回世界南モンゴル会議に出席…………… 3
- ダライ・ラマ法王日本代表部事務所のアリヤ代表が日本の首相官邸を訪問…………… 5

チベット・ニュース

- 45歳のチベット人僧侶、5年間の刑期を終えて釈放される…………… 6
- 約80名のチベット人僧侶が僧院から強制退去させられる…………… 7
- 旧来のチベット東部地方カム・ドラクゴのチベット仏教学校を強制的に解体…………… 8
- アメリカ上院歳出委員会がチベット支援への強い意志を表明…………… 10
- 2022 YEAR明けましておめでとう！ タシデレ！…………… 11

ダライラマ法王ご法話

- 『縁起讃』法話会 初日…………… 12
- 善いところを育む…………… 21

イベント・お知らせ

- 「チベットカフェ Season's Message」ありがとうございました…………… 27
- 東京のチベット料理店『タシデレ』開設記念トークイベントに登壇…………… 28
- チベット会員制度ご案内・会員募集中…………… 29

チベット通信 2021年冬号

2021年12月30日発行

発行人：ダライ・ラマ法王日本代表部事務（チベットハウス・ジャパン）

〒160-0031 東京都新宿区西落合3-26-1

電話：03-5988-3576

代表：アリヤ・ツェワン・ギャルポ（博士）

経理担当：ジグメ・ツェテン

ボランティア・スタッフ：鈴木サチ・渡辺直子

ノルジン・ドルマ大臣、 中谷元氏の国際人権問題担当補佐官就任に祝意

[2021年11月22日 日本、東京]



(左) チベット政権情報・国際関係省ノルジン・ドルマ大臣 (右) 人権問題担当補佐官中谷元氏

中央チベット政権の情報・国際関係省ノルジン・ドルマ大臣は、本日、岸田文雄首相が、国際人権問題担当の首相補佐官に元防衛相で国会議員として長いキャリアのある中谷元氏を起用したことに祝意を表明した。

ノルジン・ドルマ大臣は、「国際人権問題担当の首相補佐官に中谷氏が就任されることに、中央チベット政権を代表して心よりお祝い申し上げます」と述べた。

ドルマ大臣は、「中谷氏は長年、日本の国会議員として、また防衛大臣として、チベット・東トルキスタン・南モンゴル・香港における人権侵害問題を提起されてきました。このたびの国際人権問題担当補佐官へのご就任は、この素晴らしい努力が評価されたものでありましょう。また氏のご就任は、世界の人権と正義を守って行くという、日本の強い決意の証しでもあります」「中谷氏の就任によって、世界の人権問題は大きく前進し、中国の重大な人権侵害に対する責任を追求する国際的な取り組みは着実に強化されることでしょう。このことは、世界のリーダー達、とりわけ日本は人権侵害を容認しないという強いメッセージでもあり、チベット人をはじめとする中国の抑圧された人々にとって大きな希望の光となっています」と続けた。

ドルマ大臣は、「昨年、IPAC（対中政策に関する列国議会連盟）の共同書簡の中で、チベットにおける強制労働に関して中国への非難を表明されるなど、チ

ベットの自由のための活動に対するご支援をいただきました」と、前大臣に対してもチベット人の感謝の意を伝えた。
(翻訳：美濃部直子)

ケンポ・ソナム・テンフェル議長、 日本の新内閣総理大臣・岸田文雄氏の就任を祝福

[2021年12月3日 インド、ヒマーチャル・プラデーシュ州ダラムサラ]



ケンポ・ソナム・テンフェル議長と日本の岸田文雄首相。(コラージュ写真)

チベット亡命議会のケンポ・ソナム・テンフェル議長は、日本の岸田文雄新首相への祝意を表明しました。首相に宛てた手紙の中で、議長は、下記のように述べた。「日本の新内閣総理大臣に就任されましたことを、全世界のチベット人と第17期亡命チベット代表者議会を代表して、お慶び申し上げます」

「日本の『チベット問題を考える議員連盟』は世界最大であり、93名の名誉ある議員の皆様が参加して下さっていることを、チベット議会は光栄に思っております。これは、日本がチベットの正義のために揺るぎない支援をしてくださっていることの証です。また、中谷元氏を国際人権問題担当補佐官に任命されたことにより、ご支援はさらに強固なものとなりました。重ねて感謝申し上げます」

「貴殿のリーダーシップによって、チベット議会と日本の皆様の友好関係がより力強く進展してゆき、民主主義、法治、個々のアイデンティティに基づく人間の尊厳がより高められてゆくことを期待しております」
(翻訳：S.Suzuki)

アリヤ代表が第2回世界南モンゴル会議に出席

[2021年11月26日 日本、東京・スタッフレポーター]



ペンパ・ツェリン主席大臣のメッセージを紹介するアリヤ代表（写真：森本）

ダライ・ラマ法王日本代表部事務所のアリヤ・ツェワン・ギャルポ代表が、11月25日、東京で開催された第2回世界南モンゴル会議に出席しました。会議主催者に祝辞を述べるとともに冒頭挨拶で、ペンパ・ツェリン主席大臣からのメッセージを英語と日本語訳で紹介しました。

ペンパ・ツェリン主席大臣はメッセージの中で、「今回の『第2回世界南モンゴル会議』開催の背景には、長年の大規模で残忍な弾圧により、南モンゴルにおける文化・言語・宗教の自由が奪われ続けているという現状があります。世界が中国の人権侵害に注目している今、このたびの『第2回世界南モンゴル会議』のような活動の緊急性と必要性は、これまで以上に高まっています。」と述べました。

また、ペンパ・ツェリン主席大臣は、「この機会に、私は南モンゴルの兄弟姉妹と長年の連帯を改めて表明したいと思います。そして、すべての人々が自らの未来を自由に決めることが出来る世界に向かって、私たちの協力関係がより強化されていくことを期待します。」と繰り返しました。



オンラインで講演するジョブチョード・テムチルト会長と通訳するオルホノド・ダイチン事務局長（写真：森本）

日本の国会議員、地方議会議員そして支持者らが会議に出席し、それぞれ祝辞を述べるとともに支援を表明しました。また、一部の国会議員によるメッセージが紹介されました。『南モンゴルを支援する議員連盟』会長で、2021年首相候補の高市早苗・自民党政調会長が寄せたメッセージを、自民党の杉田水脈議員が代読しました。

また、世界南モンゴル会議会長のジョブチョード・テムチルト氏など多くの人がオンラインで会議に参加しました。会議参加者は南モンゴルの自由と正義を求めることを全会一致で支持し、会議の最後に声明が発表されました。また、報道陣も会議に出席しフェイスブックを通じて世界中に会議の様子が生中継されました。本会議には、在日チベット人コミュニティのクンガ氏がアリヤ代表に同行しました。

（翻訳：仁恕）

お問合せ電話：03-5988-3576・FAX: 03-3565-1360

Email: tibethouse.jp@tibet.net

ダライ・ラマ法王日本代表部事務所（チベットハウス・ジャパン）は
ダライ・ラマ法王及びチベット亡命政権の日本唯一の公機関

ダライ・ラマ法王日本代表部事務所のアリヤ代表が 日本の首相官邸を訪問

[2021年10月11日 日本、東京]



(写真左より) アリヤ代表、岸田首相の秘書官、長尾たかし衆議院議員

10月11日、ダライラマ法王日本代表部事務所のアリヤ・ツェワン・ギャルポ代表は、国会議事堂の岸田文雄首相の部屋を訪問し、ペンパ・ツェリン主席大臣の祝辞を手渡しました。日本チベット国会議員連盟の事務局長である長尾たかし氏がアリヤ代表に同行しました。

シキョンのペンパ・ツェリン主席大臣は、メッセージの中で、「日本の新しい首相に選出されましことを心からお祝い申し上げます。日本は、チベット人にとって特別な存在です。我々は、1967年、インドに亡命したダライラマ法王が初来日した際に、日本の皆様が歓迎してくれたことを、親しみを持って思い出します」

主席大臣は、岸田首相のアジアにおける人権問題を監視するための補佐官を任命するという約束に対し謝意を述べ、チベットのための最も大きな国会議員のサポートグループを主催してくれている日本政府と国民に感謝しました。

アリヤ代表は、翻訳を付けたシキョンの手紙と、ペンパ・ツェリン主席大臣のプロフィールを手渡しました。彼はまた、首相が参考にされるように、チベットについての書籍も提出しました。

—チベットハウス・ジャパンによる報告（翻訳：のぶこ）

45歳のチベット人僧侶、5年間の刑期を終えて釈放される

[2021年11月1日 インド、ヒマーチャル・プラデーシュ州ダラムサラ]



タンコール・ソックサン僧院

NGO・フリー・チベットによると、中国当局は、2021年8月、アバ県（中国四川省に併合）のタンコール・ソックサン僧院の僧侶ゲンドゥン・ダパカ師を、5年間の刑期後に釈放した。彼は健康状態が悪いため、釈放後に入院したと伝えられている。

彼はさらなる制限を受け、政治的権限をはく奪され、家族ともども中国当局による監視を強化されている。加えて、彼は、無期限の仮釈放であり、毎月警察署へ出頭するように求められている。

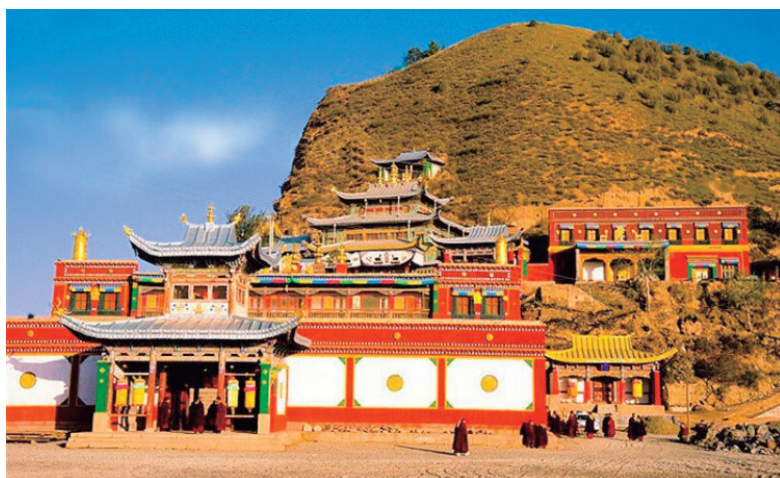
2015年8月24日、中国当局の武装警察が僧院を襲撃した後、ゲンドゥン師は逮捕され、1年間にわたり恣意的に拘禁された。その後、2015年に中国政府によるアバ県カ・バルマ村の土地押収に対して、チベットの遊牧民が行った平和的な抗議活動について「分離主義を扇動した」「亡命中のチベット人と情報を共有した」という罪で起訴された。彼は、法定代理人を立てられないなど、いかなる法的権利をも与えられないままに、秘密裁判により違法に5年間の懲役刑を宣告された。

チベット人の囚人は、刑務所での長期にわたる拷問や非人道的で侮辱的な処遇によって、しばしば長期的な健康問題に苦しめられる。釈放後に死亡した数えきれないほど多くのチベット人政治犯の一部には、クンチョク・ジンパ氏、テンジン・ニマ氏そして、タシ・プンソク氏らが含まれる。

中国当局は、「分離主義を扇動」したという遠回しな表現のもと、常にチベット人の身柄を恣意的に拘束し、収監している。中国政府によると、チベット文化やアイデンティティーを表現することは、分離主義的な行為の一種とみなされる。

— (DIIR) 国連・EU・人権デスクによる報告（翻訳：仁恕）

チベットのツォンゲン地区で約80名のチベット人僧侶が 僧院から強制退去させられる



ジャックユン僧院

チベット・タイムズによると、中国当局はチベットのツォンゲン地区（中国名：青海省）の2つの僧院から約80名のチベット人僧侶を強制的に追放した。

報告によると、2021年10月21日と22日に青海省巴燕（バヤン）地区（中国名：化隆）にあるジャックユン僧院の30名の僧侶とディツァ僧院の50名の僧侶が、警察の強制捜査によって追放され、それぞれの家へ送り返された。

中国当局は、僧院が法令に違反していると非難している。それは、18歳未満の子供が僧侶になるために僧院に入ることを禁止したもので、彼らはかわりに学校へ行くべきだと主張する。

中国当局は、追放された僧侶に今後僧衣を着ることをやめ、学校に通うこともやめるよう指示したという。

また、チベットの他の僧院にでも同様の追放活動を行い続けており、僧院で学

ぶ僧侶の数を減らしている。

チベット仏教の僧院と研究所は、チベット仏教や文化、そしてアイデンティティの象徴であるだけでなく、それ以上に、何世紀にもわたってチベット仏教が保存され繁栄してきた場所である。力づくで僧院から僧侶を追い出すことで、中国当局は、彼らの宗教と信念の自由を意図的に否定し、チベット仏教や文化的知識を若い世代へ継承することを妨害している。

これは、中国がチベット仏教を破壊していることを示しており、今後、僧院では僧侶や尼僧が不足することが予想される。

—国連・EU・人権デスク（翻訳：のぶこ）

旧来のチベット東部地方カム・ドラクゴの チベット仏教学校を強制的に解体

[2021年11月11日 インド、ヒマーチャル・プラデーシュ州ダラムサラ]



旧来のチベット東部地方カム地域所在のゲデン・ナンテン仏教学校が取り壊されている。
(写真提供：カルサン・ノブル)

チベット・タイムズによると、旧来のチベット東部地方カム・ドラクゴ（中国：炉霍県）地域の中国当局は、同校が土地利用の法律に「違反した」事実があるとして、チベット仏教学校を取り壊すよう命じました。

ドラクゴのガデン・ラブテン・ナムギャル・リン僧院の管理下にあるゲデン・ナンテン仏教学校は、公式の令状を受けた後の2021年10月31日、地元チベット人

の援助を受けて学校関係者により解体されたと報じられています。

中国当局は、学校の管理者に対し、「今後3日以内に自発的に学校を取り壊さなければ、政府が学校の解体を遂行する部隊を特派する」と命じたとのことでした。さらに中国当局は、仏教学校の備品や所有地を含む財産を没収すると迫っていたことが伝えられています。

チベットの子供たち、特に、経済的貧困のために日々の生計手段として仏教学校に属していた子供たちは、学校が取り壊されたために追い出され、自宅に戻ることを余儀なくされました。

情報筋によると、今回の仏教学校の解体は、同一区内の住宅建築にしか適用されないはずの土地利用に関する法律に違反したとする、十分な証拠のない疑惑に基づいて遂行されているとしています。

過去に中国当局は、就学年齢に達していないとして、約20名の生徒を強制的に学校から追放の上、自宅に送り返しています。

現在、中国四川省に併合されたドラクゴに位置しているゲデン仏教学校は、2014年にガデン・ラブテン・ナムギャル・リン僧院の学者や僧侶によって建設されました。閉鎖に追い込まれる以前の同校では、チベット語・中国・英語等の言語や文法の授業、仏教哲学の授業など、現代教育と伝統的教育の両方を提供し、約130名の生徒を受け入れていました。

過去、特に2008年と2012年にドラクゴ地域では、同区域において遂行された暴虐で不条理な政策や命令に対抗し、チベット人民による様々な平和的な抗議活動が行われました。こうした平和的な抗議活動は、しばしば残忍な抑圧と取締りにより対処されてきました。それ以来、中国当局は、地元チベット人の日常活動に対する監視と検閲をさらに強化し、優先的に行っています。

このような出来事は、中国政府がチベット文化や言語の中国化を近年推進していることを明示しており、チベットの学校が標的にされ続けています。このように、チベット人学校が、捏造された疑惑の下で閉鎖されることが繰り返されています。

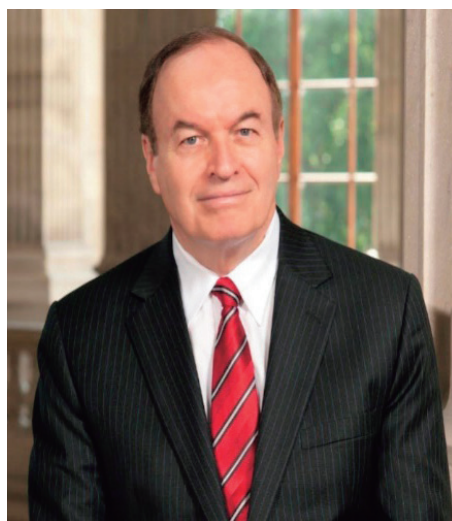
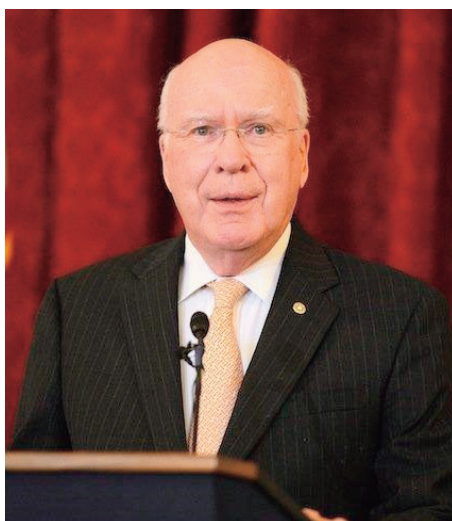
チベット人学校の強制閉鎖は、チベット人の子供たちから言語と文化を学ぶ権利を奪っただけではなく、彼らに中国政府の学校に属することを強制し、継続的な文化的同化と言語の抑圧をもたらしました。

—国連、EU、人権デスク／

中央チベット政権情報・国際関係省（DIIR）による報告（翻訳：仁恕）

アメリカ上院歳出委員会が チベット支援への強い意志を表明

[2021年11月11日 USA、ワシントンDC]



パトリック・リーヒ上院議員とリチャード・シェルビー上院議員

パトリック・リーヒ上院議員を代表とするアメリカ上院歳出委員会は最近、チベットに関する次の重要事項を含む正式報告書を米国務省歳出予算法案に提示した。当報告書は米国政府の予算利用に関するガイドラインとなるため、国務省運営における重要な意義を有する。

同報告書は、チベットに関する文書およびその他資料の項に「決議によって歳出された資金は、中国政府がダライ・ラマまたはその代理人や民主的選挙で選ばれたチベット人リーダーとのあいだでチベットについての交渉が最終合意に至ったということを、国務長官が適切な議会委員会に報告するまで、チベット自治区およびその他のチベット人在住国や地域が中華人民共和国の一部であると認識されるような文書、地図またはその他資料の作成や拡散に使用されてはならない」と記している。

同報告書は、米国政府各機関が歳出された資金をどのように運用すべきであるかについての議会からの指示となるものである。議会調査部によると「政府各機関はこれらの指示を重視し、予算委員会は各機関がこの指示に概ね従うことを期待している」とのことである。

チベット事務局ワシントンDC代表・ンゴドゥップ・ツェリンは、「本件は、上院歳出委員会からのチベット支援への強い意志表明である。チベットはこれまで歴史的に独立国家であり続けてきたが、前進のために残された唯一の道は中道であり、中国とチベット人の双方にとってプラスとなる解決策だ。今回の報告書は、中国が国際社会における正当性を守りたいのならば、ダライ・ラマ法王またはチベット人から選出された代表者との間で解決を図るべきだという自明の理を裏付けるものである」と述べ、議長であるパトリック・リーヒ上院議員および副議長であるリチャード・シェルビー上院議員への感謝の意を表した。

—チベット事務局ワシントンDC による報告（翻訳：美濃部直子）

2022 YEAR明けましておめでとう！ タシデレ！



༄༅། ཁོད་རྒྱལ་ལོ་ ༡༡༥༩ རབ་གནས་ཆུ་སྐག་གནས་ལོ་
གསར་དུ་བཞད་པའི་དགའ་སྟོན་ལ་འཆམས་འདི་
བསྐྱེད་བའི་ལེགས་ལྷ།

新年明けましておめでとうございます。

旧年中は格別のご厚情を賜り、

誠にありがたく御礼申し上げます。

来年も何卒よろしくお願い申し上げます。

令和四年 元旦

HAPPY NEW YEAR

〒161-0031 東京都新宿区西落合3-26-1

ダライ・ラマ法王日本代表部事務所

Liaison Office of His Holiness the Dalai Lama

TEL : 03-5988-3576 FAX : 03-3565-1360

<http://www.tibethouse.jp>

『縁起讃』法話会 初日

[2021年10月9日 インド、ヒマーチャル・プラデーシュ州ダラムサラ]



法王公邸からインターネットを介して行われた法話会の冒頭で、中国語で『般若心経』を誦経する台湾の僧侶たち。2021年10月9日、インド（撮影：テンジン・ジャンベル／法王庁）

今朝、ダライ・ラマ法王が、インターネットを介した法話会が行われる居室に入られると、台湾の僧侶たちが中国語で『般若心経』の誦経を始めた。誦経が終わると、チュン・チー氏が主催者を代表して法王を歓迎する挨拶の言葉を述べ、以下のことを伝えた。今日の法話会の主な弟子たちは台湾人と中国人であり、その多くは故テンジン・ジャムチェン師が創設した至福と智慧の組織（Bliss and Wisdom Organization）に所属している。ジャムチェン師は生前、多くの信心深い弟子たちを連れて何度もダラムサラを訪れたが、残された弟子たちは皆、法王の教えとアドバイスに真剣に取り組み、勉学と瞑想に励んでいる。

これを受けて法王は、インターネットを介して台湾の法友たちと会えることの喜びを伝えられ、仏法の観点からすると、師と弟子の関係は今生だけのものではなく、来世、来々世へと続いていくと述べられた。そして法王は次のように続けられた。

「今日はツォンカパ大師の『縁起讃』の解説をしますが、その前に少し仏教の概論についてお話ししましょう」

「釈尊は2500年以上前にインドで誕生されましたが、奇跡を行うためではなく、教えを説くためにこの世に出現されたのです。そして釈尊は「あなたはあなた自身の師である。自らが体験する事はすべて、自らが為す行為の本質によって定まる」と告げられました。釈尊は弟子たちに自分自身の心を制御するように促され、すべきことは何か、慎むべきことは何かを示されました。これらの助言を実践することによって、結果的に修行道の階梯を上っていくことができます」

「釈尊は、このような教えを説く以外に、自分が他者を助ける他の方法は無いとお考えでした。そして四聖諦（四つの聖なる真理）、すなわち「^{くたい}苦しみが存在するという真理（苦諦）」、^{じったい}「苦しみに^{めったい}は因が存在するという真理（集諦）」、「^{どうたい}苦しみの止滅が存在するという真理（滅諦）」、「苦しみの止滅に至る修行道が存在するという真理（道諦）」を説かれ、その本質、働き、結果について説明されましたが、なぜそのようなことを説かれたのでしょうか。私たちは皆苦しみを望まず、幸せになりたいと願っています。ですから釈尊は、幸せも苦しみも因と条件によって生じ、決して偶然にやってくるのではないことを説かれたのです」

「釈尊は苦しみを知るべきであると助言され、苦痛に基づく苦しみ（苦苦）、変化に基づく苦しみ（^{えんく}壊苦）、遍在的な苦しみ（^{ぎょうく}行苦）について解説されました。苦しみからの解放を目指すのであれば、初めに何が苦しみであるのかを理解する必要があります。苦しみは因と条件が無ければ生じませんし、外的要因によって生じるのではありません。制御できない心によって行為と煩惱が作り出され、行為と煩惱が苦しみと喜びを生み出します。それが苦しみを生む本当の原因なのです」

「私たちは幸せを求めていますので、釈尊は幸せの原因を探し出して、それを実行することの必要性を説かれました。そうすると次にやってくる疑問は、私たちは苦しみを完全に克服することができるのかどうか、ということになりますが、これについて釈尊は、苦しみと苦しみの原因が完全に止滅した状態（滅諦）に至ることは可能であると説かれました。これは仏教に特有の教えの一つです。滅諦に至ることができるのですから、行為と煩惱に打ち勝つことができ、これこそが解脱の本質なのです」



法王公邸からインターネットを介して行われた2日間の法話会初日に、開会の挨拶をするロシア・モンゴル・CIS諸国（独立国家共同体）のダライ・ラマ法王事務所の代表であるテロ・トゥルク・リンボチェ。2021年11月4日（撮影：法王庁）



ロシアの仏教徒の要請によって開催された法話会初日に、『大乘莊嚴經論』を読み上げられるダライ・ラマ法王。2021年11月4日、インド、ヒマーチャル・プラデーシュ州ダラムサラ（撮影：テンジン・ジャンペル／法王庁）



法話会2日目、法王公邸からインターネットを介して聴衆に語りかけられるダライ・ラマ法王。2021年11月5日、インド、ヒマーチャル・プラデーシュ州ダラムサラ（撮影：テンジン・ジャンペル／法王庁）



法王公邸からインターネットを介して行われた法話会の2日目、クンツェ・チョネイ僧院のメンバーが唱えるロシア語の『般若心経』を傾聴されるダライ・ラマ法王。2021年11月5日、インド（撮影：テンジン・ジャンペル／法王庁）



法話会初日にインターネットを介して聴衆に説法をされるダライ・ラマ法王。2021年10月9日、インド、ヒマーチャル・プラデーシュ州ダラムサラ（撮影：テンジン・ジャンベル／法王庁）

「ナーガールジュナ（龍樹）は『根本中論頌』で次のように述べられています」

行為と煩惱を滅すれば解脱〔に至る〕

行為と煩惱は妄分別（誤った認識）から生じ

それら（妄分別）は戲論から生じる

そして戲論は空によって滅せられる（『根本中論頌』第18章5偈）

「空性を理解することにより、事物のありようについての根本的な無知の土台を壊すことができます。同じテキストの別の章には以下の記述があります」

縁起によって生じたもの

それは空であると説く

それは他に依存して仮説されたものなので

それは中の道である（同第24章18偈）

故にどんなものであれ

縁起でない現象は何ひとつ存在していない

故にどんなものであれ

空でない現象は何ひとつ存在していない（同第24章19偈）

「ナーガールジュナの見解を最も明確に解説した著作の一つにチャンドラキールティ（月称）の『入中論』があります。このテキストの第6章の最後の方の偈では菩薩についての以下のような記述が見られます」

このように、智慧の光の現れで明らかにする者は

自らの手にあるキュルラ(果実の一種)のように
この三界のすべてを、無始の時より不生であると理解して
世俗諦の力によって滅諦に赴く (『入中論』 第6章224偈)

法王は空性を説明する論証にはいくつかの様式があることに触れられた。一つでも多でもない、論証は事物の本質を吟味し、`ダイヤモンドの小片、の論証は因の観点から事物の本質を提示する。

チャンドラキールティは、もし事物に固有の実体があるとする、そのことによって生じる論理的誤謬について示された。もし事物に固有の性質が、他に依存して生じるとするなら、それを否定することで事物が破壊されることになるが、それでは論理に叶わない。そのような現象が分析されるとき、真如以外のいかなる本性も見出せない、単に名前を与えられたことによるのみ存在している、日常世界の世俗の真理は、徹底して分析されるべき対象ではない。

ツォンカパ大師は以下のことを言明されている。



インターネットを介した2日間の法話会の初日に説法をされるダライ・ラマ法王。2021年10月9日、インド、ヒマーチャル・プラデーシュ州ダラムサラ (撮影：テンジン・ジャンペル／法王庁)

我が師たちのご温情により
有ると無いという極端論を離れた
あなたの無比なるこの乗を見た時

[その乗は] 予言を受けたナーガールジュナ (龍樹) によって解明されており、ナーガールジュナの蓮の林は、誉れ高きチャンドラキールティ (月称) の教えの月明かりによって照らされていて、チャンドラキールティの無垢なる智慧の球体は

あなたのお言葉の空を自由に動き
極端論を奉ずる闇を晴らして
誤った主張を語る者たちの星々より明るく光っていた
私の心に寂靜が訪れたのはその時である

法王は、滅諦に至ることは可能であり、そうするためには真実の修行道に従うことが不可欠であると確信していると告げられた。その修行道には戒学・定学・慧学の三学の実践が含まれている。無知の土台を壊す要因は、事物が現れている通りには存在しないと理解することである。法王は、今日では量子物理学者でさえ、これに類似する洞察を得ているとコメントされた。

仏教の究極的な奥深さは、他の要因によって生じるという縁起の概念と、そのようにして生じた事象に仮の名前を与えるという仮説の概念とに根ざしている。ツォンカパ大師は何年にもわたって、これらの概念について省察し、瞑想を重ねた。大師はまた、浄化の修行と、福德と智慧の資糧を積む修行をも熱心に行われた。

ウォルカでの隠遁修行中のある晩、大師はナーガールジュナと5人の身近な弟子たちの夢を見たが、その夢の中で、青ざめた顔色の方がツォンカパ大師の方に歩み寄ると、一冊の仏典を大師の頭に触れられた。翌日『ブッダパーリタ註』として知られる論書を読んでいた大師は、空性と縁起についての真の洞察を得られた。そのことにより、大師は、釈尊の教えに対する強い確信を表す、この『縁起讃』を記されたのだ。

法王はこの著作の伝授をご自身の家庭教師のお一人であったキャブジェ・ティジャン・リンポチェから授かったと告げて、次のように続けられた。「ティジャン・リンポチェがツォンカパ大師の著作集の伝授を私に授けてくださった時、その伝授は八つの極端論を離れた釈尊の教説に対する礼拝の言葉から始まりました」

そして法王は『縁起讃』のテキストを読み始められた。最初の偈は、`無上の智者、であり、`無上の師、である釈尊を称賛している。第2偈には、いかなる苦しみの源も無明であり、縁起を理解することで無明は滅せられると記されている。仏教の他の学派でも縁起が主張されているが、事物を`単に名前を与えられただけの存在、と説明する時、縁起の最も微細な意味が表現される。

テキストを読み進めながら法王は、私たちは、自我、すなわち`私、という感覚を皆、本能的に持っているが、実際に探してみるならば、そのようなものは一切見当たらないと諭され、ナーガールジュナの『宝行王正論』から次の偈を引用された。

人は地でもなく、水でもなく
火でもなく、風でもなく、虚空でもなく



法話会初日にツォンカパ大師の『縁起讃』のテキストを解説されるダライ・ラマ法王。2021年10月9日、インド、ヒマーチャル・プラデーシュ州ダラムサラ（撮影：テンジン・ジャンペル／法王庁）

意識でもない。これらのすべてでもないならば

これ以外のどんなものが人だと言うのか（『宝行王正論』第1章80偈）

法王は、事物には客観的で、独立して成り立つ実体があるように見えるが、もし事物が他の要因に依存して存在しているのでなければ、解脱に至ることは不可能であると述べられ、次の点を指摘された。`色即是空、と言う時、私たちは`何かが空である、ことに言及しているが、それは事物のあり方がそのようになっている、ということであって、色（物質的存在）が空によって空になるわけではないのだ。

法王は、テキストの以下の記述を読まれると、今日はここまでにすると告げられた。

これらすべては自性が空であるということと

この〔因〕からこの結果が生じた

という二つの確信は

互いに障りなく支え合っている（『縁起讃』第20偈）

これより驚くべきもの〔があるだろうか〕

これよりもすばらしいもの〔があるだろうか〕（同21偈前半）

聴衆からの質問に対して法王は、`事物は単に名前を与えられただけの存在である、と言う時、それは縁起の微細な局面を表している、と述べられた。法王は、カルマ、すなわち行為には明白なもの、隠されたもの、曖昧なものがあると話さ

れ、空性の理解は因果の法則を理解するために役立ち得る、と述べられた。

法王は、ご自身の体験について次のように語られた。朝目覚めて「自分、という感覚があることを意識し、「自分、がどこにあるのかを探し求める。そして“自分”とは他に依存して生じたものに単なる名前を与えただけの存在である」との結論に達する。「自分、とは見えている通りに存在しているものではないのだ。法王は、「自分、を探してもどこにも見つからない時、初めて、それは単なる名前を与えたことによって存在しているに過ぎないと分かる、と請け合われた。

縁起は「論理の王、と呼ばれているが、それは縁起によって実在論と虚無論の二つの極端論を一度に打ち消すことができるからである。

私たちが何かを見るとき、その体験には感覚器官が関与している。しかしそれが見た通りには存在していないと判断するには意識の関与が必要である。事物がいかにも固有の実体を欠いているかを省察することで、事物が堅固なものであるという感覚は土台を失っていく。何かが空であると言う時、それが存在しないと言っているのではない事をよく理解することが大切である。

密教の修行において福德と智慧の二資糧を積むことについての質問がなされ、法王は、空性への堅固な確信が重要であると強調された。そして、まず空性について瞑想し、自ら得た空の理解を本尊の姿として立ち上げるよう観想するべきだと指摘された。

次に、縁起に関する実践と発菩提心の修行を結び合わせることについての質問がなされ、法王は聴衆を「一切ヨーガの菩提心生起、へと導かれた。「一切ヨーガの菩提心生起、では、まずは菩提心を高める。すなわち一切有情を利益するために仏陀となることを強く希求する。そしてその思いが、胸の位置で光り輝く月輪に姿を変えたと観想する。次に法王は、空性についてどのように省察するべきかを説明され、その空性の理解が、胸の位置にある月輪の上に立つ白い五鈷杵に姿を変えると想像するように促された。

この「一切ヨーガの菩提心生起、の修行には、胸の位置に方便と智慧を堅固に観想することが含まれる。法王はこの修行を毎日行うことができる信者は、自分をダライ・ラマ法王の真の弟子であると考えてよい、と述べられた。法王が釈尊、ナーガールジュナ、ツォンカパ大師を自分の模範とすべき方と考えられているように、そのような弟子たちならば、ダライ・ラマ法王を自分の模範とみなすことができる。

自分の師を喜ばせることに関して、法王は、空性の見解を省察し、自他を平等にみなし、自他を入れ替えて考える修行を通して菩提心を育むことが師の意向に他ならないと説明された。そこには広大な流れの系譜、甚深な流れの系譜、本尊

ヨーガの修行から生じるお加持の系譜の保持が含まれている。これは弟子が従うべき一つの規範である。法王は、この他に、弟子たちがいかめしく、怒った顔を世間に対して向けるのではなく、いつも明るく微笑んでいることも大切であると付け加えられた。

『縁起讃』法話会 2日目はこちらのリンクをご覧ください。

https://www.tibethouse.jp/news_release/2021/20211010_hhdl.html

善いところを育む

[2021年11月10日 インド、ヒマーチャル・プラデーシュ州ダラムサラ]

今朝、ダライ・ラマ法王は「善いところを育む」という主題でオンライン講演を行われた。主催は日本外国特派員協会（FCCJ）で、まずFCCJのスヴェンドリーニ・カクチ会長が法王を歓迎し、続いて進行役のピオ・デミリア氏を紹介した。

デミリア氏は法王にお会いできた喜びを伝え、「これから世界はどのようなのでしょうか。人々は今より優しくなれるのでしょうか」と質問し、本日の講演が始まった。

ダライ・ラマ法王は次のように述べられた。

「善いところとは温かいところであり、慈悲深く愛情深いところのことですが、それが私たちが生き延びていくための土台です。人間は、少なくとも哺乳類である以上、生物学的にもお互いに愛情を持って接したいと思っています」

「私たちは生まれたときから母親が愛情をもって世話してくれます。そうでなければ、死んでしまいます。まだ母親のお腹にいるときから、母親の機嫌の良し悪しや、心が平穏であるか否かによる影響を受けています。人間は社会生活を営んで生きていく類いの生き物ですので、他者に依存しなければ生きていけません。私たち人間は愛情に支えられて成長します。このことが、あらゆる宗教において愛の大切さを説く理由のひとつです。宗教にあまり関心のない人も同じ人間であり、愛情に満ちた優しさを経験することが、幸せな人生を送ることにつながります」

「どこへ行っても私には友人がいますが、それは私が出身地域や人種、宗教の違いなどによって区別しないからだと思います。私にとって、他の人々は兄弟姉妹のようなものです。その結果、人々は概ね私に対して親切にしてくれます。彼らは私がいつも笑っている顔に反応してくれているのです。もし私が人々に対し



法王公邸から臨まれた日本外国特派員協会主催のオンライン講演に先立ち、スヴェンドリーニ・カクチFCCJ会長から歓迎を受けられるダライ・ラマ法王。2021年11月10日、インド、ヒマーチャル・プラデーシュ州ダラムサラ（撮影：テンジン・ジャンペル／法王庁）

てしかめっ面をしたり、つっけんどんな態度を取ったとしたら、このように多くの友人を得ることはできなかったかもしれません」

「優しさや思いやりは、動物に対しても有効です。犬に笑顔で親切にすると尻尾を振りますが、怒った顔で文句を言うと尻尾を巻いて逃げてしまいます」

「近代教育においては、優しさや思いやりの重要性が十分に教えられていません。幼い子どもたちは家では笑顔で過ごしますが、学校に通い始めると知性を磨くことばかりが重視され、その笑顔が他の心配事にとって代わってしまいます。そのバランスをとるためにも、優しさや思いやりが幸せに生きることに役立つということを、教育のカリキュラムに組み入れる必要があります。不安や怒りに支配されると睡眠が妨げられますが、心が平和であればよく眠れます。優しさや思いやりのところは人類全体に恩恵をもたらすことができるのです」

「それでは、なにかご質問があれば受けたいと思います」

ピオ・デミリア氏が外国人特派員に対し、質問する上でのルールとして簡単に自己紹介をしてから質問を簡潔、明快にするよう求めた。そして、最初の質問は、恐ろしい状況下であっても心の平和を保つ方法についてであった。

「一般的な教育では、優しさを育み、心の平和を保つ方法について教えるということが大きく欠けています。すでに述べましたが、実際、心が平和であれば不安や怒りを克服できます。温かいところを持っている人は穏やかで幸せです。私は一人の難民で、多くの苦難に直面してきましたが、内なる平和を培うことがと



日本外国特派員協会主催の「善いところを育む」と題したオンライン講演で（撮影／法王庁）

でも役立つということを身をもって理解することができました。優しく思いやりのある態度をとることが鍵となるのです」

「私たちチベット人はナーランダー僧院の伝統に基づいて仏教の教えを学んできているので、根拠に基づくものの考え方をします。私たちの心の平和は根拠に根差しているのです。私たち人間は感情、特に精神の均衡を崩しやすく、怒りに捕らわれてしまいがちですが、心の訓練を積むことにより、怒りや恐れを減じ、思いやりの気持ちを高めることができます。それは私が子供のころから親しんできた訓練なのです」

次に、もし法王が世界の2600万人の難民のリーダーに選ばれたとしたら、最初に何をされますかとの質問に対して、「私はただ単に一人の人間であり、チベット人です。リーダーとなることに関心はありません。私は政治的な活動からは完全に引退しています」と述べられた。また、「あなたの人生において何か後悔はありますか」との質問には、「それはありません。私の人生を振り返ってみると、私は常にすべての人間が私の兄弟姉妹であると考え、心の平和を保つよう努めてきましたので、後悔は何もありません」と答えられた。

異なる宗教を持つ人々と共に平和に暮らすためにはどうしたらよいかについて、インドネシアの特派員がイスラム教徒への助言を求めると、法王は次のように述べられた。

「70億の人間は皆、同じような感情を経験しますが、その中には怒りや差別を強調する指導者たちに操られている人たちもいます。そして、政治家が宗教的な

忠誠心を政治に利用したり、宗教の違いを悪用したりする場合があります。しかし、結局のところ、宗教の選択は個人の問題です。ひとりひとりが優しさと思いやりのところを育み、人類はみな兄弟姉妹であるという感覚を養えば、それが人類全体に対する関係に波及するのです」



日本外国特派員協会主催の「善いところを育む」と題したオンライン講演で、法王公邸からお話をされたダライ・ラマ法王に質問をする馬場玲子氏2021年11月10日（撮影：インド 法王庁）

台湾が現在直面する状況を1949年のチベットが置かれていた状況と比べてどう思われるかという質問には、法王は「台湾の人々はほとんどが漢人であり、仏教を含め、中国古代の伝統や文化の多くの側面を守り継承されてきました」と述べられ、「中国本土は、台湾に経済的な機会を提供するとともに、中国古来の価値や伝統を台湾から学ぶことができると思うのです」と語られた。

そして、「中国と台湾が平和的に協力する方法を見つけられるように心から祈っています」と述べ、次のように続けられた。

「私が中国にいたとき（1954-55）、毛沢東主席や他の指導者たちにお会いしたことがあります、彼らのマルクス主義の価値に感銘を受けたものです。しかし、ある時、毛主席が「宗教は毒である」と宣言され、その瞬間、私は毛主席がどれほど宗教を敵視しているかということに気付いたのです」

別の質問者からは、習近平氏が3期目の任期を迎えたことをどう思われるか、そして香港や新疆で起きたことを考えると、世界は間近に迫った冬季オリンピックをボイコットすべきではないか、という質問があった。それに対して法王は、

習近平氏については何も言及しないと明言され、毛主席や他の指導者たちに会ったとき、彼らのイデオロギーに魅力を感じる面もあったが、厳格に管理しようとする姿勢には魅力は感じなかったと述べられた。そして、新しい世代の指導者の下で物事が変わっていくことへの期待を示された。チベットと新疆については、中国共産党の一部の指導者は、異なる文化の価値や役割を理解しないばかりか、中国内にチベット人やウイグル人などの様々な民族が暮らしていることさえ理解していない、と指摘された。

次に、新型コロナウイルス感染症の世界的大流行によって引き起こされた困難に対して、地域社会はどのように対処したらよいかについて助言を求められると、法王は、ご自身よりもっと的確に助言する資格のある専門家がいると答えられた。

別の外国人特派員が「習近平主席と会う予定はありますか」と質問すると、法王は次のように述べられた。

「具体的な予定はありませんが、数年前から五台山へ巡礼に行きたいと希望してきました。もしそれが叶っていたなら、北京に立ち寄り中国の指導者とお会いすることもできたでしょう。また、中国の旧友である元官僚や軍人も訪ねてみたいと思っています。私も年を取りましたが、彼らも年を取っているのです、彼らがどうしているのか見てみたいのです」

アラビア人の特派員から、「イスラム世界の最も神聖な地であるメッカを訪れたいと思われますか」と尋ねられ、法王は次のように答えられた。

「宗教間の調和を促進することは私の使命ですので、その一環として、ぜひメッカを巡礼したいと思いますし、もし機会があれば、喜んでお受けします。インドには様々な宗教の祈りの場があり、以前、私はそのいくつかを訪れたことがあります。デリーにあるジャーマ・マスジッドというイスラム寺院を訪れたときは、トピ、とかタキーヤ、と呼ばれる伝統的な白い帽子を被って礼拝に参加しました」

同じ特派員が、「チベット戻って暮らしたいと思われることはありませんか」と尋ねた。

「私はここカンガラ谷のダラムサラで暮らして数十年になりますが、私はここでの暮らしを非常に楽しんでいます。世界中のどこからでも人が訪れてくれますし、私はここにおいて世界中の人々とお話することができます。私はとても自由です。何年前か、インド元首相のマンモハン・シン博士に、ここでは完璧な自由があるので、私は生涯この地に留まりたいとお伝えしたことがあります」

次に、「ダライ・ラマ法王は歴代のローマ法王に会われましたが、現在のローマ法王にはまだ会われていませんね」と尋ねられ、「もしフランシスコ法王さえ



日本外国特派員協会主催の「善いところを育む」と題したオンライン講演で、法王公邸からモニター越しに参加者からの質問に答えられるダライ・ラマ法王。2021年11月10日、インド、ヒマーチャル・プラデーシュ州ダラムサラ（撮影：テンジン・ジャンペル／法王庁）

よければ、喜んでお会いしたい」と述べられた。

新型コロナウイルスによるパンデミックへの対処法についての質問には、ご自身は専門家ではないと繰り返されたうえで、どんな状況であっても、平和なところを保つことができれば、より幸せを感じることができ、不安は減り、身体的にも強くなると思うと述べられた。

台湾のジャーナリストが、法王が以前に台湾を再訪すると述べられたことを思い出し、まだそのご予定であるかどうかを質問した。法王は次のように答えられた。

「今の時点では、中国本土と台湾の関係が微妙なので、当面はインドで平穩に過ごしていきたいと思います。政治的な問題を引き起こしたくはありませんから。しかし、インターネットなどのテクノロジーのおかげで、他の地にいる人々とお話することができます。私は台湾の兄弟姉妹や中国本土の兄弟姉妹たちの幸せのために、できる限りの貢献をしたいと思っています」

「私は政治的には中道を旨としており、チベットの完全な独立を求めているのではありません。私の立ち位置はオープンなものとなっています。状況は非常に複雑なので、私のような一介の仏教僧は複雑な政治の問題に頭を突っ込みたくはないと思うことが時々あります」

最後に、ピオ・デミリア氏がダライ・ラマ法王とローマ法王のどちらが先に中国を訪問すると思われるかと尋ねると、法王は「神のみぞ知るですね」と言って笑われた。

デミリア氏は、過去にダライ・ラマ法王は日本外国特派員協会の名誉会員として登録されていたが、期限が切れていたなので、この度、登録を更新したと言って新しい会員証を法王にお見せした。デミリア氏は、「私たちは法王がこの名誉会員証を直接受け取りに来られることを楽しみにしています」と伝えた。

法王は、「ありがとう、またお会いしましょう」と応じられた。

TIBET CAFE

みなさま、いつも心のこもったメッセージと御支援を
ありがとうございます！

■『チベットカフェ』ってなに？

「チベットカフェ」という名称で、チベットハウスの活動への寄付を受付けています。

コーヒー1杯分から任意の金額で、喫茶店でお茶を飲むように、気軽にご寄付していただければと思います。

■『チベットカフェ』の参加方法

(郵便振替口座) 東京00100-1-89768 チベットハウス

郵便振替用紙の通信欄に「チベットカフェ」と明記してメッセージをお書き添えいただき、上記の口座に任意の金額をご寄付ください。(必ず「氏名」に「フリガナ」をつけてください) メッセージとお名前のイニシャルだけチベット通信に掲載します。特にメッセージがなければフリーチベットにさせていただきます。

■『チベットカフェ Season's Message』ありがとうございました。

- ✓ フリーチベット。N/Kanagawa
- ✓ チベットへ自由を。TD/Tokyo
- ✓ ボー・ギャロー。JT/Osaka
- ✓ タシデレ。DT/Wakayama

アリヤ代表、東京のチベット料理店『タシデレ』新ホームページ 開設記念トークイベントに登壇

ダライ・ラマ法王日本代表部事務所のアリヤ・ツェワン・ギャルポ代表は、東京のチベット料理店『タシデレ』の新ホームページ開設記念トークイベントに登壇しました。コロナウイルスの流行による東京都の飲食店の営業規制が緩和されたため、このような小さな集会が開催できるようになりました。このイベントでは、トークショー、ディナー、歌などが行なわれました。

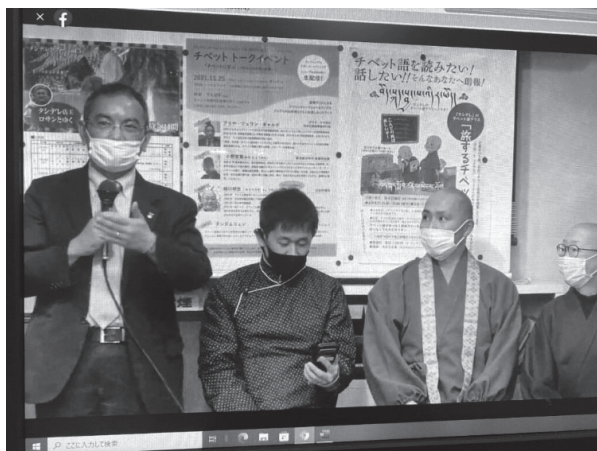
アリヤ代表は、CTAとダライ・ラマ法王代表部連絡事務所の活動を簡単に紹介し、法王の4つの使命の一つである「人間の価値」の重要性について話しました。また、SEEラーニング（S：ソーシャル・社会的／E：エモーショナル・感情的／E：エティカル・倫理的）について説明しました。また、日本とチベットの社会的な考え方や道徳観などの類似性について述べ、最後に、日本の支援者・ボランティアの皆様の継続的なご協力に感謝の意を表しました。

天台宗普賢寺住職・小野常寛師と天台宗僧侶・緑川明世師は、チベット・コミュニティとの出会いや、仏教が彼らの人生に与えた影響について語りました。レストラン『タシデレ』新ホームページを制作したロータスリーフ合同会社の代表・堀下剛司氏は、レストラン『タシデレ』との関わりや、仏教という哲学がいかに多くの精神的ストレスを抱えた人々をポジティブな方向に導くかについて語りました。

その後、レストランのオーナーであるロサン氏と日本人3名で、ダムニェンというチベットの弦楽器を使ってチベットの歌を披露しました。

コロナウイルスのパンデミックの影響で、参加者は20人に制限され、各テーブルに4人ずつ、マスクを着用して参加しました。このイベントはノンアルコールで行われ、Facebookでライブ配信されました。

（翻訳：S.Suzuki）



チベットハウス会員制度ご入会案内／会員募集中

会員特典

チベットハウスにご入会いただくと、さまざまな特典をご利用いただけます。

- 会員向け季刊誌「チベット通信」の無料定期配布（年4回予定）
- ダライ・ラマ法王来日情報等のご案内
- ダライ・ラマ法王来日講演のご優待
- 弊事務所主催の各種イベントの割引（1割から2割）
- 弊事務所チベット図書室の貸出サービス

会費について

入会費：3,000円／年会費：5,000円（※毎年4月に更新手続きをして頂きます。）

初年度合計：8,000円

ご入会方法：チベットハウス入会ご希望の方は、ゆうちょ銀行「郵便振替用紙」の通信欄に「チベットハウス入会希望」とご記入のうえ、お名前／フリガナ（フリガナは必須です）／ご住所／電話番号／メールアドレス を明記していただき、入会費及び年会費合計の8,000円をお振込ください。

お振込先

ゆうちょ銀行 郵便振替口座

口座記号番号：00100-1-89768

加入者名：チベットハウス

※尚、銀行振込でのご入会は扱っておりませんので、ご了承ください。

チベットハウス会員更新方法

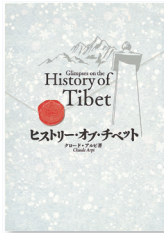
チベットハウス更新ご希望の方は、郵便振替用紙の通信欄に「チベットハウス更新希望」とご記入のうえ、年会費の5,000円をお振込ください。

お問合せ電話：03-5988-3576 FAX：03-3565-1360

Email：tibethouse.jp@tibet.net

2年間、年会費のご入金が確認できない場合は、退会の扱いとさせていただきます。ご了承ください。

チベットについての出版物 Books on Tibet



ヒストリー・オブ・チベット History of Tibet

クロード・アルピ著 (Claude Arpi) 販売価格: 1,000円

著者のクロード・アルピ氏によるチベット史の歴史をもとに作られた本書「Glimpses on the History of Tibet」は、絵や写真を通じて世界で最も高い場所の始祖神話から近代以降の苦闘までのチベットの多彩な文化、政治、宗教をまるで旅するかのよう体験できる本です。



希望 チベット亡命50年 Tibet Exile 50

販売価格: 1,000円

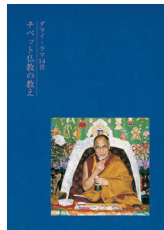
ダライ・ラマ法王台湾事務所によって発行された本の邦訳版。中国によるチベット占領、ダライ・ラマ法王の亡命、そしてインドでの中央チベット政権再建から、2009年で50年という月日が経過した。その50年間の記録を、オールカラー写真とわかりやすい解説を通じて紹介。



ダライ・ラマ 平和のメッセージ

販売価格: 1,000円

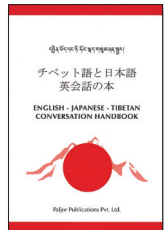
ダライ・ラマ法王の世界平和や地球環境問題に関する思想や見解を掲載。「思いやりと個人」、ノーベル平和賞受賞のスピーチや講演、「普遍的責任と環境」等、ダライ・ラマ法王の非暴力の精神を理解するための鍵となる内容。



ダライ・ラマ14世 チベット仏教の教え

販売価格: 1,000円

1995年のダライ・ラマ法王来日における法話集。仏教一般、特にチベット仏教の基本的な教理と実践の他、「人類の未来と人間の心」、「日本の人々へのメッセージ」を掲載。



チベット語と日本語 英会話の本

アリヤ・ツェワン・ギャルポ著 販売価格: 1,000円

チベット語と日本語を学びたい人々にとって、非常に簡潔で使いやすい会話の手引書になっています。著者が自らの経験をもとにして、日常会話の中で頻繁に使う言葉や語句を中心に書いた本です。



中国共産党100の残虐行為

販売価格: 1,000円

ダライ・ラマ法王台湾事務所によって和訳し、明日香出版社によって発行された。チベットで本当に何を引き起しているのか？ 豊富な図版とともにジェノサイドの実態を伝える証言集！ 本書でチベット人の苦しみを知ってほしい。櫻井よしこ氏推薦！

お問合せ電話: 03-5988-3576

Email: tibethouse.jp@tibet.net